

「日々の理科」(第 2326 号) 2020, 11, 24

## 「屋根に根付いた落葉松(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

カラマツの葉はよく積もる。落葉広葉樹の落ち葉は地面の落ちたあと、風で飛ばされることも多いが、針のように細いので、落ちた場所に留まることが多い。



これはガレージの屋根の様子だ。カラマツの落ち葉で、ぎっしりと敷き詰められている。実はこの落ち葉は、今年の落ち葉だけではない。このガレージの屋根は雨を流すために、写真手前側が低くなりように、やや傾斜がついている。しかし、その傾斜はゆるいので、カラマツの落ち葉のように細かいものは、そのまま残ってしまう。傾斜による重力にも、風の力にも、雨水が流れる勢いにも耐えてしまう。



この屋根は、本来は凹凸のある「波板」なのだが、その凹凸が落ち葉の堆積で、完全にパッキングされて、平らになってしまっている。



私は梯子をかけて、屋根の上面を近くで見られる高さまで登ってみた。カラマツの落ち葉に混ざって、カラマツの小枝や果実(球果)もたくさん落ちている。この写真はまるで「地面」のように見えるだろうが、これでもガレージの屋根の上だ。



これがカラマツの「球果」だ。マツボックリよりもずっと小さく、その分数は多い。一つの枝に数十個つくこともある。鱗片の隙間には種子がはさまっている。



驚いたことに、屋根の落ち葉の上に、小さなカラマツが根付いていた。こんな土もない乾いた場所で、樹木が成長できるのだろうか？